

# 福島県の産業廃棄物処理状況等について

令和 6 年 5 月 3 1 日  
産 業 廃 棄 物 課

## 1 産業廃棄物の処理フロー

令和 4 年度の産業廃棄物の処理フローは図 1 のとおりである。

排出量 7,134 千トンのうち、再生利用された量は 3,626 千トン、再生利用されずに最終処分された量は 615 千トンとなっている。

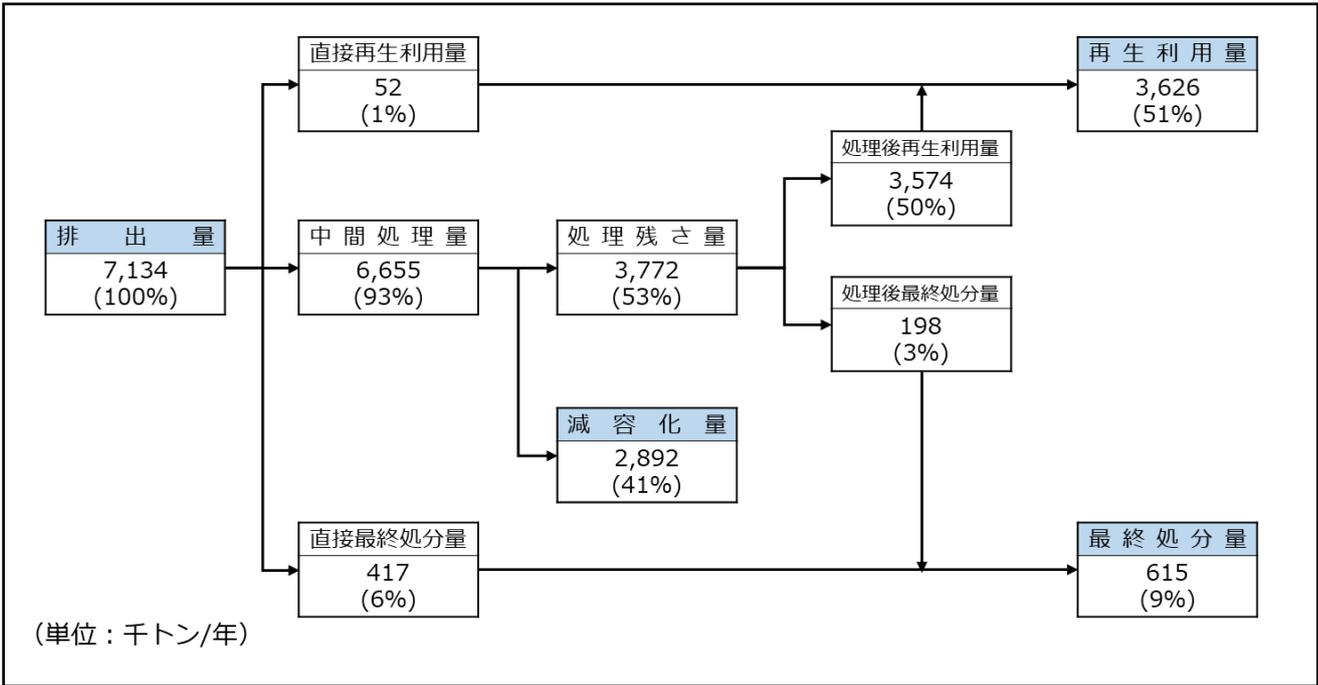


図 1 産業廃棄物の処理フロー（令和 4 年度）

出典：「令和 5 年度福島県産業廃棄物排出処理状況確認調査業務報告書（令和 4 年度実績）」（福島県）

## 2 産業廃棄物の排出状況

県内の産業廃棄物の排出量は表 1 のとおりである。

また、産業廃棄物の種類別、業種別の排出量の推移は、図 2、図 3 のとおりである。

平成 29 年（2017 年）度以降、産業廃棄物の排出量は、緩やかにではあるが、減少傾向にある。

東日本大震災の復旧・復興工事が落ち着いたことにより、建設業からの排出量が減少していることに加え、令和元年以降では、新型コロナウイルスのまん延による景気低迷、水害、地震などの自然災害で工場等が被災し、稼働を停止したことなどが排出量の減少の一因になっていると考えられる。

県内の産業廃棄物の排出状況を種類別にみると、主たる産業廃棄物としては、汚泥、がれき類、ばいじんの順に多く、全体の約 8 割を占めている。

さらに、業種別にみると、製造業、電気・ガス・水道業、建設業で約 9 割となっている。

表1 県内の産業廃棄物の排出量状況

(単位：千トン)

	H24 2012年	H25 2013年	H26 2014年	H27 2015年	H28 2016年	H29 2017年	H30 2018年	R元 2019年	R2 2020年	R3 2021年	R4 2022年
産業廃棄物 排出量	8,052	8,490	8,321	7,936	7,332	7,844	7,822	7,722	7,498	7,457	7,134

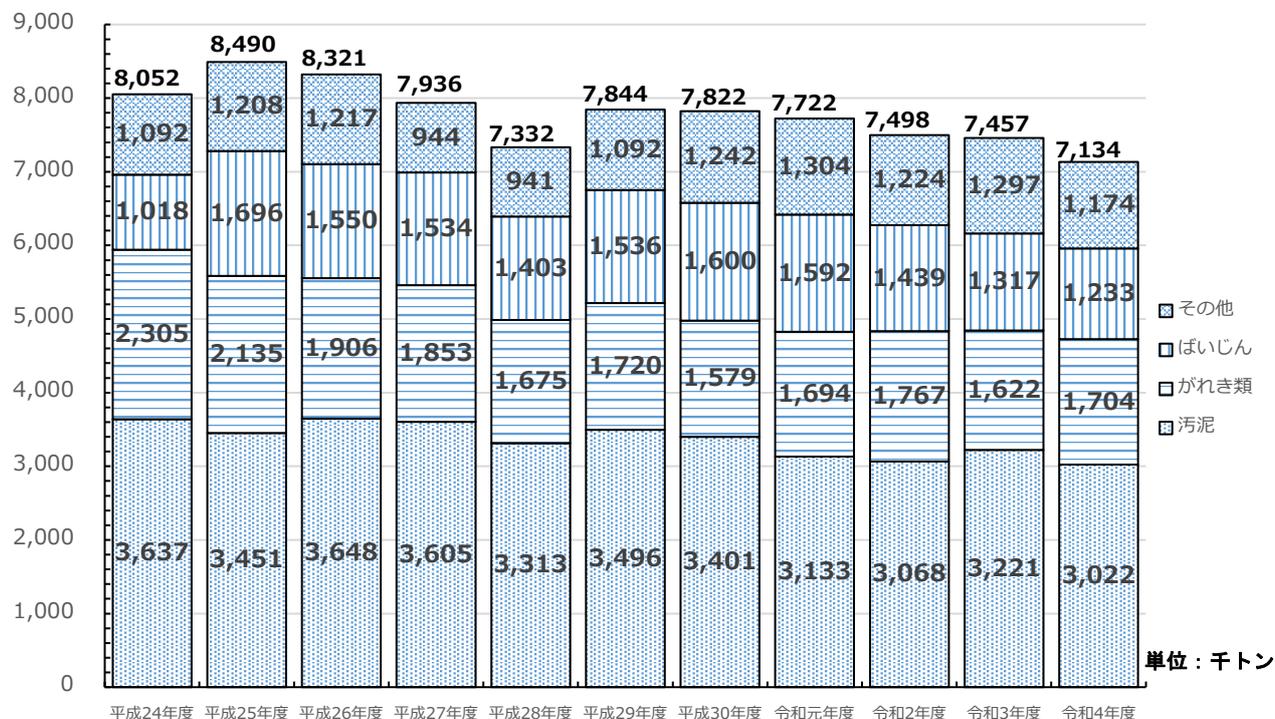


図2 産業廃棄物排出量の推移（種類別）

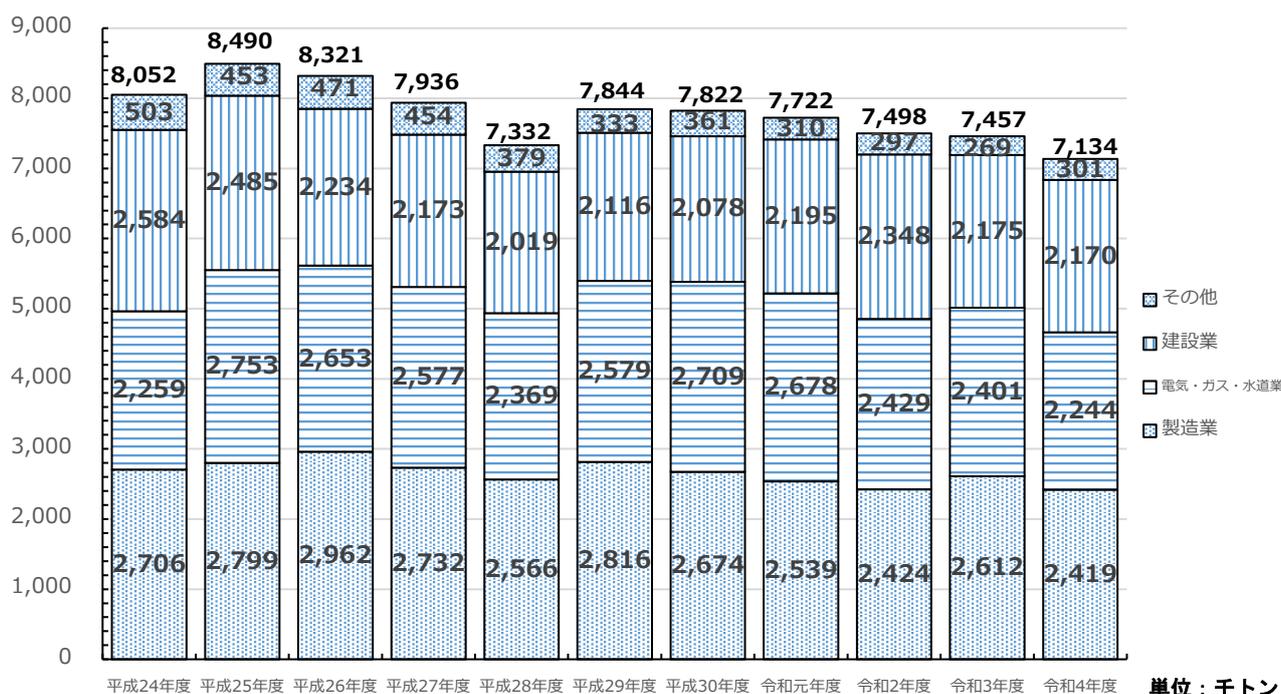


図3 産業廃棄物排出量の推移（業種別）

### 3 産業廃棄物の最終処分状況

県内における産業廃棄物の最終処分量は表2のとおりである。

また、産業廃棄物の種類別、業種別最終処分量の推移は、図4、図5のとおりである。産業廃棄物の最終処分量については、平成24年(2012年)度から平成28年(2016年)度にかけて減少していたが、近年は横ばいで推移している。

産業廃棄物の種類別の最終処分量をみると、汚泥、ばいじんが減少傾向にある一方、廃プラスチック類は横ばいで推移している。

なお、業種別の最終処分量をみると、建設業、製造業、電気・ガス・水道業が全体の9割以上を占めており、電気・ガス・水道業が減少傾向にあるものの、建設業、製造業では、横ばいで推移している。

近年では、製造業、建設業からの汚泥の排出量が減少したことに加え、電気供給業(電気・ガス・水道業)から排出されるばいじんの再生利用が進んだことで最終処分量が減少したと考えられる。

一方で、廃プラスチック類については、平成29年(2017年)度以降、諸外国が廃プラスチック類の輸入を規制したことにより、国内での廃プラスチック類が滞留し、また、再生利用も飽和状態になっていることが最終処分量にも影響していると考えられる。

表2 県内の産業廃棄物の最終処分量状況

(単位：千トン)

	H24 2012年	H25 2013年	H26 2014年	H27 2015年	H28 2016年	H29 2017年	H30 2018年	R元 2019年	R2 2020年	R3 2021年	R4 2022年
産業廃棄物 最終処分量	961	835	681	570	471	541	573	509	511	643	615

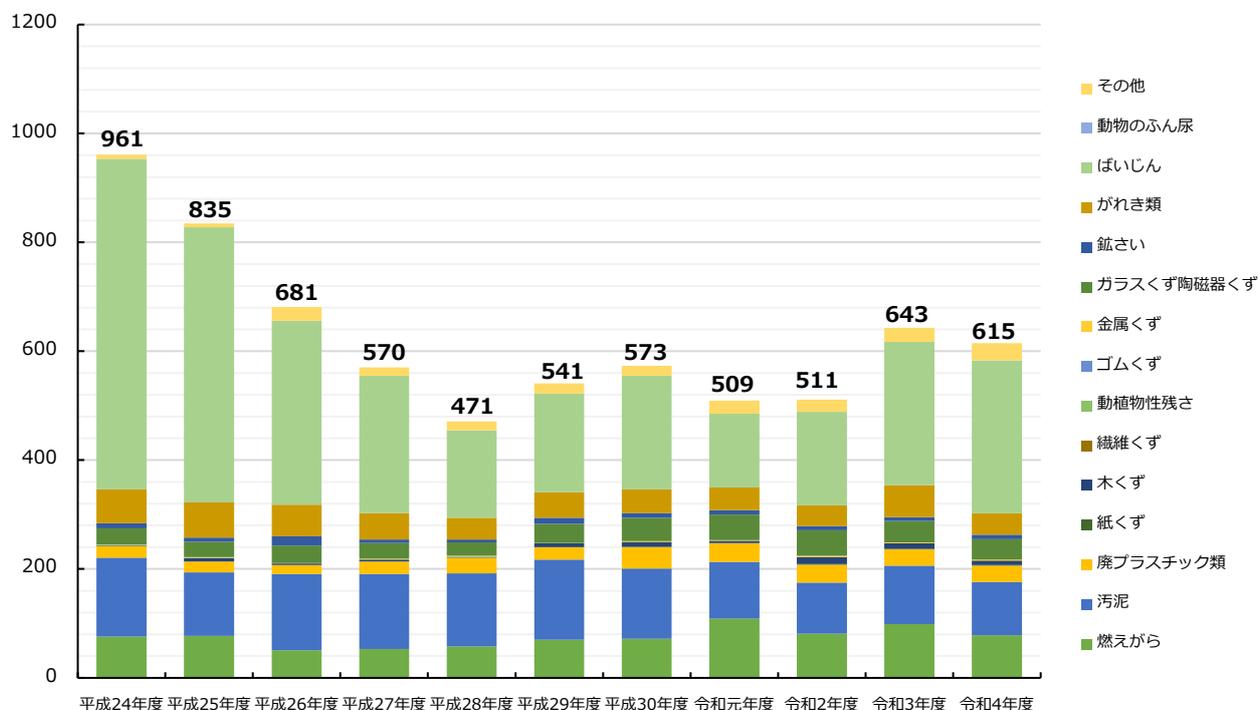


図4 産業廃棄物の最終処分量の推移（種類別）

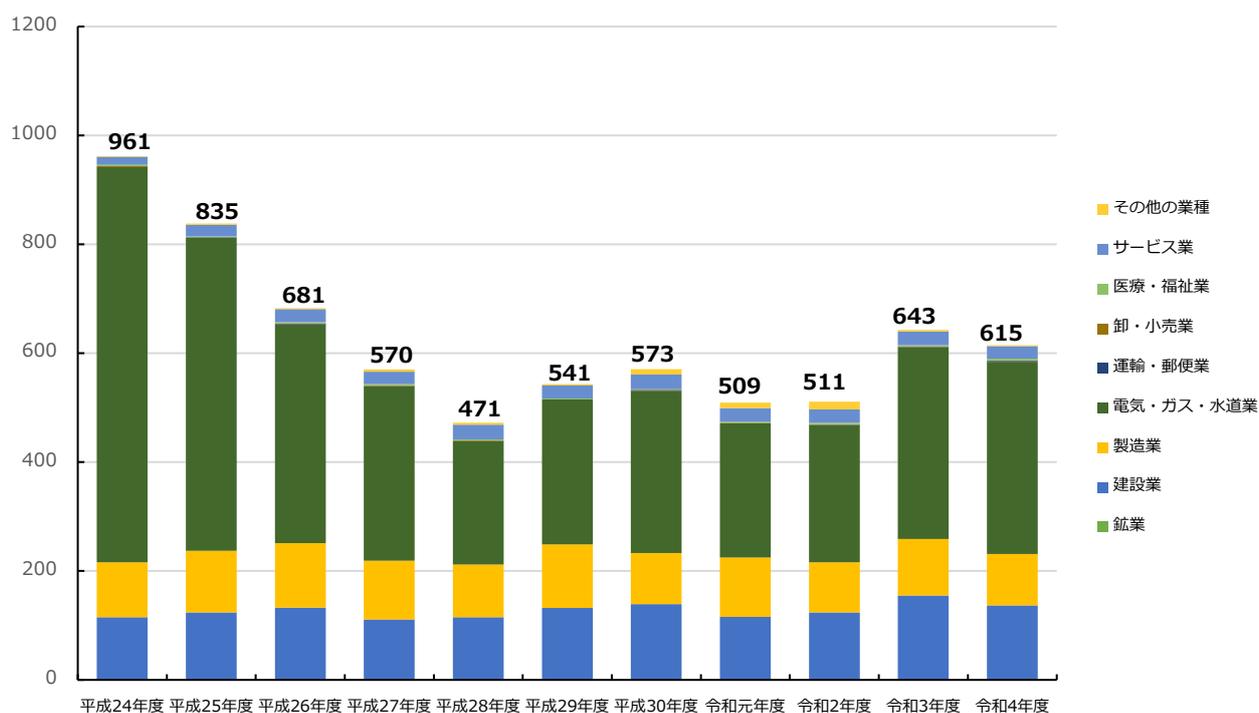


図5 産業廃棄物の最終処分量の推移（業種別）